

公益財団法人マツダ財団 若者調査研究

新規事業「若者×ツナグバ」
発足記念記録誌

2018年3月

公益財団法人マツダ財団

はじめに

マツダ財団は 2017 年度より、新事業「若者×ツナグバ」をスタートいたしました。スタートに先立ち、当事業に対し多大なご支援をいただいた吉備国際大学の轡田竜蔵准教授の著書『地方暮らしの幸福と若者』出版記念シンポジウム、並びに「若者×ツナグバ」オープニングセレモニーを開催いたしました。当事業のキックオフとして、参加者全員の思いの詰まった両イベントを記録に留めるため、記録紙を発行することといたしました。

当財団は、大きな柱のひとつである青少年健全育成に関わる事業をこれまで数多く進めてまいりました。あらためてその活動の軌跡を振り返った時、青少年の最終ステージと言える「社会人になる直前の若者」あるいは「社会に出て間がない若者」を対象とした取り組みが欠落している事実を目の当たりにすることとなりました。

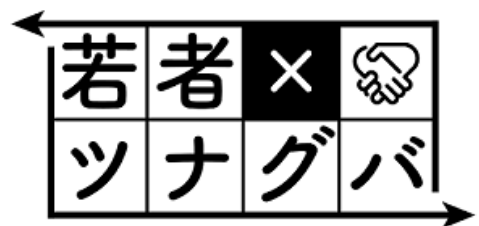
青少年の健全育成とは、この若者達が社会人として独立して豊かな人生が送れるようにならないと、目的を達成したことにならないのではないかと考えるようになりました。若者を取り巻く環境は非常に厳しく、社会的負担は増えるばかりで、明るい将来はとてども期待できないと考える若者が非常に多い状況です。我々は「若者に希望を」をスローガンに新事業の模索を開始した矢先、地元紙中国新聞のオピニオンというコラムに、地方の若者に関する研究を進められている吉備国際大学轡田竜蔵准教授のインタビュー記事が掲載され、それがマツダ財団との運命的な出会いを生むこととなりました。

轡田先生が岡山にて手掛けられていた若者調査を広島において新たに実施し、そのアンケート調査結果の分析は、『広島 20-30 代住民意識調査』報告書として、そして轡田先生の地道な個別インタビュー調査、分析が加味され、『地方暮らしの幸福と若者』刊行に結実することとなりました。

轡田先生の調査で浮き彫りになった若者の実情に鑑み、「若者×ツナグバ」では、「社会人になる直前の若者」あるいは「社会に出て間がない若者」を対象としています。彼らが多様な考え方を理解し、自分の納得できる生き方を見つけて、潜在能力を高め、希望へとつないでいけるよう「対話」「表現活動」「居場所づくり」などの活動を、轡田先生の指導を仰ぎながら、我々の主旨に賛同頂ける団体と連携する形で進めてまいります。微力ながら若者の自立支援の一助となりましたら幸いです。

2018 年 3 月

公益財団法人 マツダ財団 常務理事 事務局長 魚谷 滋己



新規事業「若者×ツナグバ」発足によせて

2018年3月

吉備国際大学 社会科学部 准教授 轡田 竜蔵

I. 出版記念シンポジウム開催概要	6
1. 開催の目的、方法.....	6
2. 実施結果（参加者のアンケートより）	6
II. 出版記念シンポジウム記録	9
開会、ごあいさつ	9
第1部 講演 『地方暮らしの幸福と若者』	10
第2部 パネルディスカッション	33
III. オープニングセレモニー開催概要.....	45
IV. オープニングセレモニー開催記録.....	48
午後1時～ 開会式	48
午後2時～ オープニング記念イベント	52
午後7時～ 閉会式	55
閉会、ごあいさつ	57
資料編.....	59
青少年健全育成（調査・研究）「若者自立支援」について	60
I. 調査・研究の背景と問題意識.....	60
1. テーマ設定の背景 ー若者自立支援を選定した背景ー	60
2. 問題意識.....	60
2. 1 問題の誘因と考えられる事項.....	60
2. 2 若者に関わる問題と課題.....	62
2. 3 問題意識.....	62
II. 検討の経緯	63
1. マツダ財団「14 中期事業計画」の検討（2013 年）	63
2. 吉備国際大学 饒田 竜蔵 准教授との協議.....	63
2. 1 饒田先生に対する調査研究事業（委託研究）の提案（2013 年 11 月）	63
2. 2 調査研究事業に関する合意事項（2013 年 12 月）	63
III. 調査活動	64
1. 調査対象地域の選定	64
2. 郵送アンケート調査.....	64
3. インタビュー調査.....	64
IV. アンケート調査実施「府中町/三次市 20～30 代住民意識調査」（2014 年 7 月）	64
1. 調査内容.....	64
2. 調査スケジュール.....	64
3. アンケート回収実績.....	64
4. 2014 年 7 月 2 日「広島 20～30 代住民意識調査」アンケート調査票.....	65
V. 「広島 20～30 代住民意識調査」報告書（2015 年 7 月）	83
1. 地方暮らしは決して楽ではない	83
2. 地域満足度の意味するもの	83
3. ソーシャル・ネットワーク格差.....	84

4.	居住歴の多様化／流動化する地域社会	84
5.	社会経済的格差	84
6.	自己充足（コンサマトリー）格差.....	85
7.	ダウンシフターの限界ーさとりきれない若者たち.....	85
8.	問題提起.....	86
	青少年健全育成(新規事業検討)「若者自立支援」について.....	87
I.	「若者自立支援」新規事業化に向けた検討の過程	87
	事業化のための意見交換会 記録	87
	「広島の若者についてディスカスしよう」 in 府中.....	87
	「広島の若者についてディスカスしよう」 in 三次.....	89
II.	若者×ツナグバについて	93
1.	事業目的.....	93
2.	事業内容.....	93
3.	事業推進体制.....	94
4.	連携団体プロフィール	95

I. 出版記念シンポジウム開催概要

出版記念シンポジウム

『地方暮らしの幸福と若者』

-入場無料・予約不要-

日時 平成 29 年 3 月 18 日(土)13 時 00 分～15 時 30 分

場所 合人社ウエンディひと・まちプラザ北棟 6F(広島市中区袋町 6 番 36 号)

主催 公益財団法人マツダ財団

後援 府中町/ 府中町社会福祉協議会/ 三次市/ 三次市教育委員会

協力 勁草書房

来場者数 50 名

プログラム)

開会あいさつ

第 1 部 講演

『地方暮らしの幸福と若者』 吉備国際大学准教授 轡田 竜蔵

第 2 部 著者を交えたパネルディスカッション

コーディネーター: 阿部 真大氏 (甲南大学准教授)

パネラー: 永田 夏来氏 (兵庫教育大学助教)

パネラー: 川端 浩平氏 (福島大学准教授)

1. 開催の目的、方法

マツダ財団が、若者に関する事業を考えていきたい、と欲っていたちょうどその頃、ある新聞記事と出会った。若い人のことは分かってはいるつもりであったが、記事を読んでも、若者に対するイメージとまったく異なっていたことに驚いた。記事を書いた轡田先生へメールを出し、倉敷へ伺った。記事の内容が、轡田先生が自らの足で岡山県の若者のデータを取られたものがベースとなっていることを知った。岡山県ではなく広島県で調べた場合、同じ結果になるとは限らないので、広島での実態調査を依頼した。轡田先生に快諾いただき、広島県の三次市と府中町で「広島 20-30 代住民意識調査」を実施。その調査結果を分析したものが今回の著書出版に繋がり、シンポジウムを開催する運びとなった。一方マツダ財団は、調査を軸とした様々な検討や先生からの助言も得て、「若者×ツナグバ」という新しい事業を 2017 年の 4 月から開始予定。

シンポジウムは 2 部構成とした。

第 1 部では、轡田先生に依頼した調査結果を分析した内容について講演いただき、総括と課題の整理を行った。第 2 部では、団塊ジュニア世代の社会学者によるパネルディスカッションを行った。第 1 部での講演の内容を踏まえつつ、一括りに語られがちな地方暮らしの若者について意見交換を行った。

2. 実施結果 (参加者のアンケートより)

来場者から回収したアンケートでは、「地方の声の拡声器」「自分が府中町から出たことがないその理

由を明確に説明頂けた」とのコメントを多数お寄せいただいた。府中町と三次市の2ヶ所が無作為抽出の郵送調査により867票を回収し、更に合計58名のデプス・インタビュー調査の実施による社会調査、という豊富な事例に基づいた著書ならではの出版記念シンポジウムになった。「これほど手間のかかるアンケート調査がベースだとは思わなかった。」「都会は中心の価値で行政が動く中、このような良いシンポに参加できて良かった。」と都市圏からみた地方都市分析が多い中、このように幅広い生情報に触れる機会は、なかなか得られないものようである。

第1部講演については、「現状がどのようになっているのか分かりやすい。」とのコメントの他に「示唆に富む内容で良い。」「個人の属性による考え方や意識などを分析したい。」と轡田准教授の研究の成果に期待する声も見られた。

第2部パネルディスカッションについては、各パネリストが豊富な事例と高い専門性を背景に語り合うことにより、「これからを考えるきっかけになった。」「年代・発想も若く前向きで現代的な視点に立った発言だった。」との声が寄せられた。

(参考 開催案内のチラシ)

出版記念シンポジウム



◆日時: 2017年3月18日(土)
13時00分～15時30分

◆会場: 合人社ウエンディひと・まちプラザ北棟6F
広島市中区袋町6番36号

『地方暮らしの幸福と若者』

入場無料
事前予約不要

マツダ財団委託研究『広島20～30代住民意識調査』をベースにした調査研究が出版されました。

主催: 公益財団法人マツダ財団 後援: 府中町/府中町社会福祉協議会/三次市/三次市教育委員会 協力: 勁草書房

第1部

講演

広島県内の「地方中枢拠点都市圏」と「条件不利地域圏」の2つの自治体の若者への質問紙調査とデプス・インタビュー調査から導き出された答えとは!?

くつ わだ りゅうぞう

轡田 竜蔵 氏 (吉備国際大学准教授) 著者



第2部

パネルディスカッション

団塊ジュニア世代の社会学者3人が、著者と地方暮らしの若者の問題について議論する!

- あべ まさひろ
阿部 真大氏 (甲南大学准教授) 労働社会学 / 『地方にこもる若者たち』『搾取される若者たち』など著作多数。
- なが た なつき
永田 夏来氏 (兵庫教育大学助教) 家族社会学 / 若者の結婚観・家族観についての調査研究を行う。TV等の出演多数。
- かわ べた こうへい
川端 浩平氏 (福岡大学准教授) 社会学・カルチュラルスタディーズ / 「地域社会における差別・排除と共生の実践」が研究テーマ。

※開催記録としてビデオ・写真撮影を行います。ご了承くださいませよう、お願いいたします。

お問合せ先: 公益財団法人マツダ財団 TEL:082-285-4611 (平日 9:00-17:00)

